

公表

2024年度 事業所における自己評価総括表(児童発達支援・放課後等デイサービス)

○事業所名	しえあきつず		
○保護者評価実施期間	2024年 9月 1日		2024年 9月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33名	(回答者数) 24名
○従業者評価実施期間	2024年 9月 1日		2024年 9月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 17名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各種委員会を設置し、デイ職員も参画していること 定期的な研修の機会があること	・毎月委員会メンバーで集まる日を決め、定期的な会議を開催している。 ・法人内職員がなるべく全員参加できる日を設定し、その日に各委員会持ち回りで研修を行っている。	・委員会会議や研修に参加できていない職員への情報共有や周知方法の検討 ・委員会メンバーの構成や研修内容の充実
2	生活空間が清潔に保たれていること	・毎日利用者が帰られた後で、フロア内を掃除、消毒している。 ・使用したおもちゃ等の物品もその都度消毒している。 ・年2回大掃除の日を定め、普段の掃除では出来ない外回り等の掃除も行っている。	・掃除のみでなく、物品庫の整理や片付けも含め、整理整頓し過ごしやすい環境に整えていく。 ・カビ予防のために防カビ燻煙剤を使用するなど、予防できる汚れには早期対策を講じる。
3	定期的に個別支援計画の見直しが行われていること	・全利用者をグループに分け、詳細なスケジュールを立てることでモニタリングの時期や計画立案の見逃しを防ぐ。 ・計画立案会議ではなるべく多職種が参加できるよう日程調整し、児童発達支援管理責任者のみでなく利用者に関わる職員全員が立案に関わるようにしている。	・主に担当する職員のみでなく、デイの職員全員が会議に参加し利用者のことを知り、計画立案に関わるようにしていく。 ・本人支援の5領域、家族支援、移行支援についても知識を深める。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動プログラムの固定化 年齢への対応(年齢に適した活動が提供できていない) 集団活動ができていない	・今年度、新入職員が多く、活動に取り組む余裕がない。 ・放課後利用の方が増え、入浴支援の需要も増えているため活動時間の確保が困難。 ・利用者の年齢層が幅広く、集団活動となると各々に適した活動の提供が困難。どちらかの年齢に合わせたものになってしまう。	・他事業所や発達支援センター等へ研修や見学へ行き、療育や活動についての知識を深める。 ・利用時間の長くなる長期休暇中に集団活動が実施できるよう、計画を立てる。 ・過去に集団活動を提供していた職員が中心となり、どのようなことをしていたか、今後どのようにしていくか等の話し合いの場を持ち、今後の活動計画を立てる。 ・担当についている方と遊ぼうと思った時には、一旦周囲を見て一緒に遊べそうな方を探し、集団での遊びを意識した支援を行う。
2	支援終了後の振り返りができていない	・利用者送迎後、掃除や片付けもしないといけないため、振り返りの時間を取ることが難しい。 ・時短勤務の職員も多くいるため、どのタイミングで振り返り時間を設ければ適切なかが分からない。	・手の空いているデイの職員以外にも協力を仰ぎ、掃除や片付けを手伝ってもらい、振り返りの時間を確保する。 ・支援終了後は難しくても、支援中や翌朝など、まだ時間に余裕があるタイミングで少しずつでも振り返りを行っていく。 ・社内コミュニケーションツールを活用し、その日の利用者の様子の共有や疑問などの解決ができるようにする。

3	<p>学校等との情報交換や連携が不十分であること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や学校の先生方と関わる機会が送迎時のみしかないため、会話の時間も限られてしまい、深い話ができにくい。 ・学校での様子を知ろうとしても、学校の荷物には触ってはいけない、連絡帳は見てはいけないなどの決まりがあり、情報を得る手段がない。 ・個別支援会議等が開催されても教育側の参加がないことが多く、学校での様子や先生の考え等を聞くことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での様子を先生方から聞きたい場合は、保護者に許可を取り学校へ問い合わせる。 ・個別支援会議の開催時には、相談支援専門員に教育側の参加を依頼する。 ・放課後等デイサービス事業所連絡会にて支援学校の先生方と話す機会があるため、その時間を活用し日頃気になっていることを聞く。（個人情報除く） ・オープンスクールなどの機会を活用し、先生方との信頼関係構築を図る。
---	------------------------------	--	---

公表

2024年度 保護者様等からの事業所評価の集計結果（児童発達支援・放課後等デイサービス）

事業所名	しえあきつず						公表日	2024年 12月 26日	
		利用児童数				33名		回収数 24名	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	24				・明るく、活動しやすい空間になっている	今後も継続していく	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	22			2	・基本の配置数が分からない	当事業所の利用定員数や基準職員配置等、基本的な情報をお伝えする機会を設ける。しえあきつずだより、オンラインでのルームツアー、インスタグラムの活用等。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	24					今後も継続していく	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	24					今後も継続していく	
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	24				・リハビリに関しては、訪問時に現状を伝え本児の特性に合わせた動きを取り入れていただいている。 ・事業所の皆さんの、こどもを理解しようとする姿勢、気持ちをキャッチしようとする姿勢が高いと思います。	今後も継続していく	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	22			2		支援プログラムはホームページ上で公表しており、各個人の個別支援計画も支援プログラムの5領域に対応したものに変更している。そのことをまずは従業者に周知し、保護者にお伝えしていく。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	24					今後も継続していく	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21			3	・本児や家族に合わせて計画が立てられていると思う。 ・言葉の理解ができません、申し訳ございません。移行支援？	今年度より、個別支援計画を「本人支援」「家族支援」「移行支援」の項目を取り入れた内容に変更している。計画同意をいただく際などにその旨を説明する。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	24					今後も継続していく	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	22			2	・集団、個別に季節に応じて対応されています。 ・季節やイベントに沿って色々楽しませてもらっています。 ・いつも楽しい活動をありがとうございます。	今後も継続していく。 他事業所や発達支援センター等への研修や外部講師を呼ぶなどして研修の機会を作り、重心児への活動プログラムについて学ぶ。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、又は、放課後児童クラブや児童館との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2	2	6	14	・されていたらすみません。 ・こちらが知らないだけかもしれませんが、あまり聞いたことがありません。	今のところ需要は感じていない。今後保護者よりご希望があれば、交流を検討する。	
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	23	1				今後も継続していく	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	24					今後も継続していく	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	4	1	8	・在宅介護が長くなると新しい情報が入らず、この介護の看護でいいのかなどよく思います。 ・すみません、参加したことがないので…	今後保護者よりご希望があれば開催を検討する	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	24				・基本熱がこもりやすい。しかし、暑い日や入浴後に冷やしすぎると、体温調節がおかしくなることがある。	今後も継続していく	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21			3		定期的には行っていないが、保護者より相談があった場合は速やかに対応している。定期的な面談等のご希望があれば、開催を検討する	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	23			1	・本人だけでなく、きょうだいの相談もさせていただきます。	今後も継続していく
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	1	7	11	・保護者同士の交流できるイベントがあれば参加したい。事業所に行くことがあまりないので、事業所でイベント等あれば参加時に活動の様子や活動スペース等確認できと思う。 ・きょうだい向けのイベントは一度参加させて頂きましたが、家族（きょうだい）と話して我が家は不要と思いました。保護者同士の交流程ではなくても、情報交換の機会は欲しいです。 ・小学校に入ってからコロナがあったからか無くなったので、交流があれば嬉しい。	ご希望があれば今後開催を検討する。小規模なものから開催できると良い。 保護者会以外にも、オンラインでのルームツアーやInstagramを活用するなど、活動スペースを見ていただく機会を設ける。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	21			3	・こちらからの相談に親身に対応して下さっています。が、そのような場所がある？とは？ ・急な利用要請にも迅速に対応していただいている。	今後も継続していく。 「そのような場所がある」という点については、私たちも理解不足であるためまずは理解を深める。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	24					今後も継続していく
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	20	1		3	・インスタ見えます！	今後も継続していく。 しえあきっずだよりやInstagram等で周知・報告していく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22	1		1		今後も継続していく
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20			4		しえあきっずだより、防災便り、Instagram等で周知・報告していく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	21			3	・お手紙等でも知らせて下さるので分かりやすいです。 ・インスタで見ました。	しえあきっずだより、防災便り、Instagram等で周知・報告していく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	23			1		しえあきっずだより、防災便り、Instagram等で周知・報告していく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	22			2	・体調が悪くなった時は速やかに連絡して下さり、状況を詳細に伝えて下さったので分かりやすく、安心できた。	今後も継続していく
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	23			1	・親も安心しています。	今後も継続していく
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	22	1		1	・長期休みのみの利用ですが、毎回とても楽しみにしています。 ・楽しいのが一番だと思っています。いつもありがとうございます。 ・帰宅するといつも機嫌がよく、楽しく過ごせているなど思っている。 ・長期休み中の買い物と、唐揚げの味見は特に楽しみにしていると思います。 ・とても楽しく通えています。	今後も継続していく
	29	事業所の支援に満足していますか。	24				・季節に合わせた取り組みが充実していると感じます。 ・安心してお願いできるので、とてもありがたいです。	今後も継続していく

公表

2024年度 事業所における自己評価結果(児童発達支援・放課後等デイサービス)

事業所名	しえあきつず		公表日		2024年 12月 26日	
※回答者総数は17であるが、無回答や多重回答もあった。						
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	17		<ul style="list-style-type: none"> 適切な広さはある。 利用定員とスペースの関係は適切と思うが、おもちゃ倉庫前のベッドを使用している時はおもちゃなど取りに行く時に利用者やベッド等にぶつかりそうで怖い時もある。 利用者のバギーの大きさや持ち物などによって狭いと感じる時があるが、概ね適切である。 一人一人のスペースが確保出来ており、居場所が作れているように思う 帰宅準備に入るタイミングでバギー等入りスタッフの出入りが多くなると、近隣の利用者のスペースが手狭になる事がある。しかし場所移動で回避は出来ている。 その日のベッドや布団の配置を利用者にとって良いと思われる環境が考えられていると思う。 長期休みで朝から利用者、スタッフが大勢いてもスペースが確保されている。 フロア全体が見渡せて担当外の利用者の様子も伺えてとても良いと思う。 利用者のスペースは確保されているように感じる。畳下の引き出しが、利用者の荷物などがある事で開けにくいことはあるが、物を移動させることで解決できるので問題ない。 	今後も継続していく
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	15		<ul style="list-style-type: none"> 適切だと思う。 マンツーマン以上でついでていることも多く、十分であると思うが、放課後の入浴時間等、人手が必要な時は足りないと感じることもある。 キャンセルなどでスタッフが多くつくこともあるが、活動の充実に繋げられている。 送迎の関係で看護師が、より忙しく動いているタイミングがあるが皆で声を掛けあいながら現場を回す事ができている。 曜日や時間帯によって手薄になる時もあるが、スタッフ同士でカバーしあいながらできている。 入浴介助時に手薄と感じることがある。 マンツーマンで対応できるのでゆっくり利用者さんとお話できる 常にマンツーマンで対応できているが、医療処置が必要な利用者様が多い日は看護師がもう一人欲しい時もある。 	今後も継続していく
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	18		<ul style="list-style-type: none"> 環境はシンプルでわかりやすい。バリアフリーにもなっている。またスタッフの動線の確保ができている。 わかりやすいと思う。 一部死角になる部分もあるが、環境は整備されている。 障がいの特性に応じているかは一部不明。 アレルギー対策への環境整備をしている 衛生面や換気など徹底して配慮されている。バリアフリーやリフト、ストレッチャーを個別に使用して安全にケアができている。 	今後も継続していく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	18		<ul style="list-style-type: none"> 日々の清掃や消毒で衛生的である。 時間がある時に普段できない掃除、布団やクッション等を干すなどをして清潔に保たれていると思う。利用する子供達も心地よく過ごせていると感じる。 日々の清掃、消毒で目には見えない最低限の衛生環境は保たれていると思います。陽当たりが良く開放的で気持ちが良いと思います。 毎日隅々まで掃除を行なっている 	今後も継続していく
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	17	1	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて対応している トイレや着替え時には個室や衛立でプライバシーの保護ができている。 「認められる環境」にはなっているが、個別の部屋等複数の部屋はなく、使用できる空間は限られている。 この環境では難しいのではないかなと思う。 個室は多くないため静かな空間の保障が難しいが、2階の事務所を使用して対応している。 	今後も継続していく
	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	17	1	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の事業所会議には職員は原則参加し、振り返り等を行っている。 訪問看護スタッフも含め連携を取りながら、会議やそれ以外でも意見を交わらせている。 日常的に朝のミーティング時などで振り返りをしている 定期的な会議とは別に、朝礼や終了前に職員全体でケアの振り返りや、翌日のシミュレーションをするなどの時間が取れている。 非常勤の人など、参加できない職員もいる。 事故報告書を社内コミュニケーションツールで共有することで、振り返りと業務改善に繋がっていると思う。 	今後も継続していく 話し合いに参加できなかった職員には、会議の議事録の閲覧や社内コミュニケーションツールを用いて情報共有を行っている

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
業務改善	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	17		<ul style="list-style-type: none"> ・できている ・毎年自己評価アンケートを実施。実施結果を踏まえて、例えば、便りの発行を行うなどで情報伝達を行うなど、改善を行っている。 ・アンケートのみだけでなく、個別支援計画のモニタリング時にも機会はあると考える。 ・入職して初めてのアンケート実施でまだ回収結果や検討会議等を経験していないが、過去の事例などを聞き、検討して改善していることなどを聞いている。 	今後も継続していく
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	17		<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の事業所会議を行い意見を共有する場を設けている。 ・会議に加えて、日々の業務の中でも情報共有、意見交換ができるようタイミングをみて声掛けがなされている。 ・意見交換を日々行って改善策を話あっている。 ・会議やミーティングの機会が設けられている 	今後も継続していく
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	17	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者による外部評価の機会がないように思う。 ・第三者による外部評価は行っていない。 	必要であれば、外部評価の導入を検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	17		<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の様々な法人内研修を実施。また、事業所独自の研修訓練、外部研修の周知と参加の機会も受けている。 ・外部研修の情報が発信されることにより、スキルアップに繋がっている ・月1回の法人内での研修実施に加えて 外部研修の情報提供や研修を受けられる機会も充実している。 ・月に1回の全体研修の実施・参加以外に外部研修のアナウンスなど取り組みがされている。利用者の状況の変化に伴うケアの変更などにも迅速にMTを開き情報共有をしている。 ・法人内では月1回の定期的な研修機会があるが、外部での研修の周知はされ機会は与えられているものの、参加は自由なので、どれほど参加しているかは不明。 	今後も継続していく
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	17	1	<ul style="list-style-type: none"> ・法人ホームページに公開している。ホームページをもっと充実できればなおよい。 ・職員と相談し、プログラムの作成をしている。利用者の特性により、その都度プログラム内容は変更していくつもりである。 	今回は公開期限が決まっていたため、主に児発管一人で考えた支援プログラムとなっている。その都度利用者の様子を見ながら、プログラムを更新していきたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	17		<ul style="list-style-type: none"> ・児発管を中心にスタッフが参加、検討して個別支援計画を作成している。 ・6か月毎の作成に加え、ケア内容に変更があった場合等は適宜計画も更新している。 	新入職の方も多く、必要な情報が適切にアセスメントできるようにするには時間がかかると思う。今後に活かせるように、アセスメントの際の留意点やポイントなどを共有していきたい。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	17		<ul style="list-style-type: none"> ・児発管を中心にスタッフが参加、検討して個別支援計画を作成している。 ・デイスタッフのみでなく、訪問看護スタッフも含め検討することも ・個人ファイルを用いてスタッフ全員が共通の理解が出来るようにしている。 ・多くの職員の意見もほしいと思う利用者もいらっしゃる。 	今後も継続していく
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有されて計画に沿った支援がおこなわれていると思う。 ・できている ・職員が計画書を何回も見て、支援している ・活動場面では時間に追われて計画に沿った支援が難しいこともあるように思う。 	今後も継続していく
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	8	<ul style="list-style-type: none"> ・あまりあてはまらないと思う ・日々の行動観察はできていない ・出来ていると断定はできないが、MTの活用や連絡ノートの活用を促し改善方向に向かっている。 ・アセスメントツールの使用はしていない。 ・具体的な内容は分からない為コメントできない 	大前提として、言葉の意味の理解を促すような機会を設ける必要がある。 標準化されたアセスメントツールを使用していないが、各々で利用者の様子を観察し連絡帳や社内コミュニケーションツール等で記録・発信しているため、今後もその取り組みを継続する。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	17		<ul style="list-style-type: none"> ・左記を設定した計画となっている。 	今後も継続していく
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	17		<ul style="list-style-type: none"> ・多職種が話し合い活動プログラムの立案ができている。 	今後も継続していく
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	10	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の保育計画を立てて活動プログラムが固定化しないようにできている。 ・季節に合わせた活動が取り入れられている ・活動プログラムの立案はできているが、実行はなかなかできていない。季節の取組も昨年度のものと同様になっていることも多く、固定化してきているようにも感じる。 ・固定していてもいいプログラムもあると思うが、活動の幅が広がっていない気がする ・個別での活動中心になりつつある。全体レクが実施できない曜日はどうするか等検討が必要。 ・子供たちの年齢に応じて活動プログラムの改善が必要ではないか？ 	放課後等デイサービスの利用者が多く、放課後のご利用では入浴もあり活動時間を確保することが困難。長期休暇中を利用し、活動できるよう機会を提供する。 集団活動ではできていないが、個別活動時には年齢に合わせた活動が各々で提供できている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	11	6	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のその時の状況に合わせて個別活動か集団活動か選択して支援がおこなわれている。 ・平日は難しいが、長期休みなどを利用し、集団活動の時間が確保できればと思う ・状況や個人の状態に合わせて個別、集団の活動を提供している。 ・集団活動の取り組みを持つ機会が難しいが、個別活動においては、無理強いせず個々の状態やその時の利用者の気持ちに寄り添い支援が行えていると思う。 ・個別活動は個々の意向を取り入れ支援ができていて、集団活動は利用時間やケアスケジュールの都合上実施できていない。 ・全員が同じ集団活動はできないが、小集団ならできるとも思う ・活動内容によっては利用者のスケジュールや身体状況により実施出来ない内容もあるが、少しでも参加や活動ができる工夫が必要と思う。 ・集団活動はほぼできていない ・計画は作成されているものの、支援には至っていない印象。集団活動がスケジュール的に難しいこともあるし、個別活動では個々の能力に適応しないこともまれに見られる。 ・学校のある平日は集団活動が難しいと感じる、休日に取り組みが必要があるのか？ 	放課後等デイサービスの利用者が多く、放課後のご利用では入浴もあり活動時間を確保することが困難。長期休暇中を利用し、活動できるよう機会を提供する。 新入職員が多く、集団活動に取り組みることが困難な状態。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	17		<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝ミーティングを実施し、1日の流れや担当、留意点等の確認を行っている。 ・毎朝のミーティングで各自の動きを確認し、把握しあえている ・途中から担当につくスタッフにも、今後の流れ等を伝え、把握した上で担当につけるようにしている。 ・午後出勤のスタッフにも引継ぎ連絡を頂いている。 ・毎朝のミーティングでその日の動きを確認し、変更があればその都度声掛けを頂いています。 ・事前打ち合わせもするが、その時々で臨機応変に声掛けをして連携して支援している ・役割分担はその都度おこなえている ・朝の朝礼時に当日の打ち合わせや、フォローの体制の確認ができています 	今後も継続していく
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	16	<ul style="list-style-type: none"> ・気づいた点があれば児発管に伝えて情報共有をおこなっている。全職員に情報共有が必要な情報は児発管から発信している。 ・利用者によって終了時間が異なる場合が多いため、個々で振り返ることはできていると思う ・必ず行えていないが、気付いた点等はその都度共有している。 ・分からない点、気づいた事を児発管に伝え助言を受けられている。 また必要な案件は児発管より職員全体に情報共有、周知がなされている。 ・職員全員とは言えないが、その日の利用者の状態や振り返りを終了時に報告、相談することができている ・勤務時間が短い職員もいるため、「職員間で必ず」とは言いづらい。 ・支援終了後に行うのは股間的に難しいが、次の日の朝のミーティングや社内コミュニケーションツールなどを使って行えると思う 	終礼の時間を取り、その日の振り返り等を行うようにする。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	17		<ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノートに日々の記録を作成。記録事項も含め気になることは、小会議や事業所会議で検討している。 ・連絡ノートが細かく記されており、直近の支援内容が振り返ることができ、次の支援にも活かされている ・連絡帳の記載で記録に残せている ・連絡帳の活用やオレンジファイルの連絡ノートへの細かな記載を徹底されている 	今後も継続していく
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	17		<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回、モニタリング対象者のご家族に送迎時や電話にて聞き取りをおこない、それを元に職員間で話し合っ計画の見直しをおこなっている ・モニタリングでの情報とスタッフ間の情報を照らし合わせて計画が立てられている ・6か月毎の作成に加え、ケア内容に変更があった場合等は適宜計画を更新している。 ・定期的なモニタリング以外に、状況の変化時など迅速に家族や多職種等にもモニタリングができています。 	今後も継続していく
	24 (放デイのみ) 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	17		<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流の活動は近くのスーパーやコンビニへのお買い物、図書館へ行くなどでできている、こども主体で活動できるように支援がされている。 ・保護者の希望と子どもの希望を合わせた活動ができています ・児童によっては入浴介助のみ時間が過ぎる方もいるため、長期休暇中を活用し、様々な活動を行っている。 ・利用時間に合わせて保護者、利用者の要望に対応する事が出来ていると思う ・学校後には疲れている児童もおり、状況や状態に合わせて支援を行っている。 ・本人、保護者の希望をお聞きし活動をおこなえている ・大きな活動にとらわれず、その時に出来る事を考え提供できるよう行動している ・定期的に支援されている利用者もいれば長期休みでないと支援が難しい利用者も多数いらっしゃる印象。 	今後も継続していく

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	25 (放デイのみ) 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか	17		<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや制作の中で自己選択、自己決定を促している。 ・一つの遊びの中でも、個に応じた活動が考えられており、自己決定の機会が作られている ・必ず行う医療的ケア以外に関しては、必ず児童本人と相談し決定している。 ・個々の気持ちに寄り添った関わりがなされている ・必ず自己決定の元関わりをもっている。 ・さまざまな場面でご本人の意思は確認しているが、時間等の都合でご本人の意思をかなえられないことがある ・利用者さんの意志を大切にしている ・時に利用者さんの気持ちを汲んでいない声掛けが聞かれることもあるが、選択場面では概ね意思を伺っているように思う。 	今後も継続していく
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	16	1	<ul style="list-style-type: none"> ・会議が招集された際は、原則1名は参加しており、参加できない場合も電話や文書等で意見を提出している。 ・市の放課後等デイサービス連絡会や、個人の担当者会議などに参加している。 	積極的に参加はしているが、内容の伝達は十分に行えていないと感じるため、今後は会議や社内コミュニケーションツール等を活用し、報告を行っていく。
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	15	2	<ul style="list-style-type: none"> ・会議で情報共有したり、電話で情報共有をして連携を図り支援をおこなえている。 ・幼稚園や学校への送迎時に情報共有を行っている。 ・幼稚園や学校との会議、また日頃から情報共有を行い連携を図ることができていると思う。 ・主治医や医療機関とは保護者や訪問看護を通じて連携している ・必要時各事業所、病院、学校、幼稚園との連携はおこなえている ・ご家族からの情報に頼っている部分が多い。どうしても必要な時は連絡している。 	今後も継続していく
	26 (児発のみ) 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のニーズに合わせ、連携を図れている ・送迎時に、支援内容についての情報共有や相談をしている。希望があれば他サービスに繋げるなど、連携を図っている。 ・必要時、保育所等訪問支援を利用し情報共有を始めている ・送迎時のみの情報共有が大きく、「相互理解」まで至っているかは不明。 ・試みている、連携を取りたいと思っているが理想には程遠い現実がある。どのように情報共有すべきか、ツールは何を使うのか、何も決まったものがないのでは？ 	支援内容等の情報共有を行いたいと思ひ、どうすれば連携が取れるか試行錯誤中。送迎時くらいしか他機関の方と合う機会がなく、情報共有はできて相互理解までできないのが現状。 今のやり方では不十分ではあると思うが、より良い方法を模索しつつ、保護者を交え、電話連絡等で密に連携を取り情報共有を図り、相互理解を深めていきたい。
	27 (児発のみ) 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12	5	<ul style="list-style-type: none"> ・迎え時に学校での活動中の様子を出来るだけ聞くようにしている ・保護者や移行先のニーズに合わせ、情報提供を行っている。 ・送迎時にその日の体調や活動内容をお聞きするようにしている ・十分とは言えない ・学校はデイよりも療育センターとの情報共有を望んでいるように感じる。 ・すべての子どもに支援会議を持つべきだと思う 	学校からのニーズや連絡がないことが多いので、情報共有にまで至っていない。 就学においての不安や疑問等を持った時は、こちらから支援会議等の開催を提案してもよいかもしれない
	28 (放デイのみ) 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	16		<ul style="list-style-type: none"> ・学校への送迎時に学校の先生に情報の聞き取りを行い、持ち帰って職員間で情報共有をおこなっている。 ・送迎時のみでは不十分なこともあるため、保護者を通して連絡を取ったり、学校のホームページで情報収集している。 ・参加できる学校行事に職員も参加して日々の学校の様子などを聞くなどしている ・送迎に出る機会がないので、先生と直接お話しすることはほとんどないが、訪問にて保護者を通してや、送迎スタッフからの伝達で情報共有している。 	今後も継続していく
	29 (放デイのみ) 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	14	3	<ul style="list-style-type: none"> ・児童個人票を活用して、過去に携わった機関とも連絡が取れるような環境作りが出来ている ・情報が必要な時は、各機関に連絡し情報収集している。 ・常に保育所や幼稚園との情報交換や話し合いの場ができています ・十分とは言えない。もう少し気軽に情報共有できる場があってもいいと思う。 ・就学前に利用していた機関とのやり取りは積極的に実施できていないと感じる。 ・せめて就学時に支援会議が持たれたら情報共有と相互理解が出来ると思う 	情報が必要な場合は、関係機関に連絡し、情報収集していく。
	30 (放デイのみ) 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	11	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生がいたが、情報提供の依頼がなかったためしていない。 ・情報提供の依頼があれば、提供することはできる ・就学時と同じでせめて卒業のタイミングで学校、デイサービスと進路先で支援会議を持ち引き継ぐべきだと思う 	これからほぼ毎年卒業生が出てくるので、こちらからも積極的に情報提供が可能な旨をご家族や関係機関にお伝えし、いつでも情報提供できるよう準備しておく。また、必要性を感じた時は支援会議等の開催の提案もしていく。
	31 (31～33は、センターのみ回答)				
	32 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
33 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
34 (34は、事業所のみ回答)					
34 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	15	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援センターに助言等機能を担ってほしい。 ・設けていない（センターから声掛けがない） ・センターの役割が明確になっておらず、連携の取り方が分からない 	児童発達支援センターとの連携の方法を考える。連携の必要性を感じる場合には、こちらから連絡を取っていく。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	35 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、又は、放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	15	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の園庭開放や遊び場などに参加する機会があってもいいと思う ・近くの公園に遊びに行き、近隣保育園の園児たちと関わる機会などを提供できている。 ・体調を整える、維持するのが難しい子どもが多いので、交流するのにハードルが高い部分があるが、検討の余地はあると思う。 ・施設同士で交流の場を設けることは、利用者の体調面によっては難しいかもしれないが、地域の散歩から、子どもと関わる機会をつくることから出来たら良いと思います。 ・以前は地域の小学校の運動会に参加したり応援に行ったりしたが、コロナ以降難しくなっている。 ・そのような機会がない。今後交流の場があればいいと思う。 	近隣施設へのお出かけや散歩などの活動は継続して行う。保護者からのご希望があれば、交流会のようなものの開催も検討する。
	36 (放デイのみ) (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	14	1	<ul style="list-style-type: none"> ・法人代表がメンバーであり、会議に出席している。また求めがあれば積極的に参加する。 	今後も継続していく 内容等の情報収集を積極的に行う
	37 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	16		<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時にご家族にお伝えしている。 ・送迎時やモニタリング時に話す機会を設けている。・送迎時にご家族に利用者の姿をお伝えし情報共有、共通理解に努めている。 ・上記以外にも、訪問の看護師やセラピストから情報もらうこともある ・個人のノートや送迎時で利用者の様子をお伝えしています。 ・必要時にはご家族様へお話ししている ・送迎時の時間を活用してお話している ・送迎時のみしか中々お話をする機会はないが、ポイントで状況を伝えることが出来ていると思う。受け身な保護者に関しては、関係性が出来てから少しずつ保護者の思いを聞くようにしていると思う。 	今後も継続していく
	38 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	15	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族向けの研修の機会は設けられていない。情報提供はご家族個々の対応を行っている。 ・法人が月1回発行し全ご利用者に配布する機関誌には、社会情勢や研修の案内をしている。 ・重症心身障がい児対象のデイスサービスであるため、ペアレントトレーニングは適応ではないと思う。 	法人内において、ご家族向けの研修の機会を設けるのは難しいのではないかとと思うが、個々への対応(相談や情報提供等)は引き続き行う。
	39 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	1	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に説明。報酬改定等により利用者負担が変わる場合は必ず文書を添えて説明し、同意をいただいている。 ・これらに変更があった場合には、迅速に対応し書面をお渡している。主に児発協が中心となり、ご家族へ説明している。 	今後も継続していく
	40 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	16		<ul style="list-style-type: none"> ・6か月毎のモニタリング時にご家族への聞き取りをおこなっている。 ・最重要に意識して普段から行動している ・計画書に同意いただく際に再度意向を聞くようにしている。 	今後も継続していく
	41 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	16		<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画が完成したら送迎時等に書面を示しながら説明し、同意を得られたら署名をいただいている。 ・説明の際の内容も共通理解を図り、保護者全員への共通した対応ができています 	今後も継続していく
	42 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	12	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にはおこなえておらず、ご家族から悩みが出てきた時に相談に応じている。 ・送りの際話す時間を取っている時がある ・ご利用者様またはご家族の様子の変化を見ながら、適宜声掛けをしている。 ・家族から声が上がれば適切に対応しているが面談までは行えていない。 ・必要な時にはお話を伺うようにはしているが、全利用者定期的に、とは行えていない。 	個別支援計画のモニタリングは6か月に一度実施している。そこでお悩みについてもお聞きするようになる。定期的ではないが、ご家族から相談等があった時には、必要時は面談等を行い解決に努めている。この取り組みは今後も継続していく。
43 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		16	<ul style="list-style-type: none"> ・時間的に難しいように思う ・以前は定期的に出来ていたがコロナ以降全くできていない。 ・保護者やきょうだい児の交流は今後できたらいいと思う。 	保護者からご希望の声があれば、開催の検討をする。同じ悩みを持っていそうな保護者同士をお誘いするなど、しえあきつ全体での開催は困難だと思うので、テーマを決めて少人数で集まれる機会を設けてもいいかもしれない。	
44 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	16		<ul style="list-style-type: none"> ・管理者が対応している。 ・必要に応じて対応できている ・特にケア内容に関しては迅速な対応が求められるため。 	今後も継続していく	
45 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	16		<ul style="list-style-type: none"> ・法人発行の機関紙(月1回)、法人ホームページ、インスタグラム、防災等だより(年1回)を用いて情報発信している。 	今後も継続していく	
46 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	16	1	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報のファイルは鍵のかかるキャビネットに保管 ・職員には入職時、機密情報保護誓約をしてもらっている ・会議で出た利用者の名前もアルファベット表記にするなどし、対策できている ・十分取り扱いは配慮している ・個人情報の記載された書類のある場所は限られた場所にあるようにしている。 ・個人情報の記載された用紙が裏紙の用途で事務所から持ち出されないうえ冷や冷やしている。 	今後も継続していく 社内での使用であっても、個人情報が載った裏紙の使用は禁止とする。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
47	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	16		<ul style="list-style-type: none"> ・話す時に言葉遣いに留意している ・児童の特性に合わせて、コミュニケーション方法を変えて対応している。 ・ご本人のプライバシーに関する情報共有に特に配慮している。 ・障害や環境にあわせてコミュニケーション方法を変えている ・視覚や聴覚障害、認知レベルに応じた関わりが出来るかは不明確な部分があるが、概ね職員の意味疎通しようとする姿勢が見られる。 	今後も継続していく コミュニケーションが困難と感じることも多いと思うので、適宜スタッフ同士で意見交換し合い、現に合ったコミュニケーションを獲得できるように努める。
	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	13	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方もお招きしての行事等は行っていない。 ・年に一度、地域に開けたイベントを行っている。 	保護者からの需要があれば、開催検討する。
49	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	17		<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルは事業所として作成している。職員には入職時や事業所会議、法人内研修の場等で随時周知説明を行っている。ご家族等には年1回の防災等だけで取り組みを周知。また、ホームページには指針等を公開し、研修実施報告も行っている ・研修や訓練は法人単位、事業所単位で年間計画に基づき実施。 	今後も継続していく
	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	16	1	<ul style="list-style-type: none"> ・BCPは策定済み。非常災害対策の訓練も、火災、風水害、不審者対応等、テーマごとの訓練を、年間計画に基づき、それぞれ年1回以上実施。 ・BCPの活動は各委員会ですっきり取り組まれている 	今後も継続していく
	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	17		<ul style="list-style-type: none"> ・年に1回、個人票の見直しをご家族にして頂き修正があれば記入して最新の物をファイルに挟んでいる。ご利用前にもその日の体調や変わったことが無いかを確認している。 ・児童個人票の更新を毎年行うことで情報を共有できている ・訪問看護スタッフとも連携を取り、その都度状況を確認し、共有している。 ・症状が変わるたび確認は必ず行っている ・服薬等が変われば連絡ノートに記載いただくようにご家族に協力いただいている。 	今後も継続していく 訪問看護を併用されている方は、訪問看護スタッフにも協力を仰ぎ、社内コミュニケーションツール等を活用し情報共有を徹底する。